

第48号

〒542-0072 大阪市中央区高津 2-8-10 末広ビル 502 号室
Tel(06)6214-0753 Fax(06)6214-0755



平成29年9月30日「第77回常磐津節公演会」出演者

御挨拶

一般社団法人 関西常磐津協会
理事長 常磐津 都瓦蔵



新しい戊歳の初春を迎え、心よりお慶びを申し上げます。

当協会では、毎年四月四日に、常磐津節のために尽力された先人方の供養と、協会員の親睦のための事業として、「常磐津塚法要」を大阪の寂光寺(江口の君堂)で主催いたしております。本年は、この塚が寂光寺へ移転して五十年という節目を迎えましたので、本号では、塚の設置と移転の経緯についてあらためてご紹介させていただきます。常磐津節に関わられた先人の皆様方の熱い思いを、私ども協会員が一丸となりまして、引き継いで参る所存でございます。

昨年の公演会では、「妹背山婦女庭訓」を道行から金殿まで、近年では稀になりました「通し」で演じまして、長丁場にも関わらず、大勢のお客様からご好評の御言葉を頂戴いたしました。協会員に向けては、この他、定期的な研修会を実施しておりまして、常磐津節をもう一度基本から研鑽する姿勢を育みたいと思います。一般の方々に向けての常磐津カルチャーは第二期に入り、受講生がますます増えて参りました。

本年も、常磐津節の発展、伝統文化の継承に力を尽くして参ります。皆様方の相変わらぬご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第20回ときわぎ

常磐津節演奏会

日時 平成30年1月14日(日)

午後1時開演

場所 大阪国立文楽劇場小ホール

入場料 三千元

番組

一、松島 巴松太夫社中 浄瑠璃 黒田 望

一、小夜衣 都瓦蔵社中 浄瑠璃 岡本美帆

一、権八 美佐季社中 浄瑠璃 向平友希
三味線 喜味家たまご

一、乗合船 三都貴社中 三味線 近澤一弘

一、戻橋 綱男社中 浄瑠璃 遠藤 肇

一、角兵衛 都瓦蔵社中 中川光子こと
浄瑠璃 常磐津都智光

チケット等のお問い合わせは
出演者または協会事務所まで

常磐津塚

— 設置と移設の経緯 —

当協会にて毎年四月四日に法要を行っております。大阪市東淀川区・江口の君堂寂光寺に所在する常磐津塚は、昨年で建立六十年目を迎えました。

過去の号でも取り上げましたが、改めてその経緯、意義を紹介させて頂くべく平成二十九年十一月二日、常磐津都岳蔵理事長に、塚に関するお話を伺いました。

(編集 三之祐)

——常磐津塚は平成二十九年で建立六十年とお聞きしました。

私も塚について以前から調べていたのですが、始めは千日前の自安寺に建立され、昭和三十二年六月十八日建碑式が行われました。自安寺という舞台付きの大広間があり、そこで公演会のお稽古をしていて、今でもそのことは鮮明に覚えています。

しかし千日前の拡幅工事によって自安寺は現在地の道頓堀へ移転立ち退きとなり、塚は昭和四十三年より寂光寺へ移転されました。平成三十年で移転五十年の節目ですね。

——大きな節目が続きますね。建立の経緯はどのようなものだったのでしょうか。

十五世家元・七世常磐津文字太夫師七回忌に際して建立されたのですが、建碑に至るには、三人の方の大きな功績によるものと伺いました。

- ・ 自安寺総代の野村はまさん。
 - ・ 小有喜さんのお祖母さんで、芝居茶屋「稲照」を営んでおられました。
 - ・ 料理屋「みのや」のご主人。
 - ・ 常磐津吾妻太夫さん。
- 当時関西の纏め役をされていた方でした。

——塚ではどのように先人を祀られているのでしょうか。

従来は銅板に芸名を刻み塚の後ろに埋めていたのですが、どなたが祀られているのか分からないという意見があったのと、銅板も年月による腐食が進んだため、協会によって、平成十五年に塚の傍らに白御影石製の銘板碑が建立されました。銘板碑には祀られている方の芸名、没年日が刻まれており、在りし日を偲べるようになっていきます。

自安寺時代の常磐津塚



現在の常磐津塚、向かって右隣に建つのが銘板碑
(江口の君堂 寂光寺)



常磐津塚建碑式にて(昭和32年6月18日)
(上段左より) 佐竹ふく、内林浄光、池田麗進、村雲尼公、吾妻太夫
野村 濱、津田由紀(吾妻太夫妻女)

——ここで塚に記されている碑文と発起人一覧を紹介します。

常磐津豊後三流の摘統京に発し江戸に成る浄瑠璃なり

流行を極め断壓(だんあつ)を蒙りし先人の長を彩り短を戒め

被厄以前に優る盛況を呈す延享以来浪花の義太夫節に対し

東都劇場音楽に冠たり情を盡(つく)し曲を練り弦聲豊かに流風勝る

大正末年七世文字太夫十五世宗家を継ぐに及び和合宜しきを得

屢次(るじ)見臺(けんたい)を阪地に進め斯道を擴め

慈悲深き語調に藝格益々貴し

今その七回忌に際し師を始め故舊(こきゅう)の遺芳を埋め

塚を築き業跡を偲ぶ後人徒らに蘇苔(せんたい)を涸す事勿礼

昭和三十三年稔薫風佳日

高谷伸 撰

発起人

春字太夫 菊 助 文字国栄

常磐太夫 菊次郎 文字巳喜

龍 佑 欣 司 文字恵

綱太夫 操太夫 文字福

文 藏 三都造 文字雛

文規太夫 三国太夫 寿 美

文叟太夫 茂兵衛 寿々美津

文之助 文字一朗 寿々福

文 弥 清三郎 寿々女

文五郎 花文字 寿々東女

文 糸 小 六 三都文字

文優太夫 文字宏

吾妻太夫

発起人代表 担当者

常磐津 文藏 常磐津 吾妻太夫

顧問 世話人

十六世家元 稲 照

常磐津 文字太夫

委員長

常磐津 文字八

碑文の撰者は劇作家・演劇評論家の高谷伸さんで、作詞も多く手がけられた方です。

「師を始め故舊の遺芳を埋め

塚を築き業跡を偲ぶ後人従らに

蘇苔を潤す事勿礼」

とありますが、誰も水をかける人（お参りする人）がなければ苔も枯れてしまうのみであり、毎年四月四日の法要にはより多くの方にお参り頂き、先人を偲んでお参りを絶やさなことを願ってやみません。

——お師匠様方、先輩方から先人のお話をお聴きすると、お会いすることの叶わなかった方々の遺徳が偲ばれます。

毎年の法要は協会員・関係の皆様が集まり、交流を深める場ともなっており、また、私のように協会に入った年月の浅い者には、貴重なお話の数々を聴ける機会ともなっています。

今年も四月四日（水）に、江口の君堂寂光寺において常磐津塚法要が執り行なわれます。より多くの協会員・関係の皆様にご参列頂き、先人のお話をお聞かせ願えますよう、宜しくお願い申し上げます。



第17世瑞鳳院日浩上人（池田麗進）と野村 濱



常磐津塚施餓鬼法要 昭和33年4月4日



常磐津塚地鎮式 昭和32年5月13日



協会だより

活動記録（平成29年後期）

協会

◆第3回常磐津研修発表会
平成29年7月29日（土）午後2時～
大阪市立中央会館和室

「松島」 三之祐

「廓八景」 三賀太夫

「松島」 美佐希

「三ツ面子守」 三代太夫

「お夏狂乱」 亜香音

「うつぼ」 若音太夫

「千代の友鶴」 小有喜

次世代の指導者を育成する研修会事業。正会員有志が月に一度、協会事務所（理事長に稽古を受け、その成果を発表しました。



◆第77回常磐津節公演会

平成29年9月30日(土) 正午〜

国立文楽劇場小ホール

御祝儀「寿末広」

浄 巴松太夫・三賀太夫・三代太夫

三 小三郎・小欣矢・上小東矢

『妹背山婦女庭訓』より

「願系縁苧環」

浄 小都路・垂香音・小杜珠・美佐希

三 小有喜・麒六・上三都姫

「三笠山御殿の段」

「鱈七上使」

浄 都代太夫・若音太夫・一男太夫

三 都史・上三之祐

〈姫戻り〉

浄 一佐太夫・都代太夫

小 杜珠・美佐希

三 都崑蔵・上都史

〈竹に雀〉

浄 三都由紀・三賀太夫・三代太夫

一 男太夫・三都秀

三 三都貴・上三都姫

〈金殿〉

浄 小由太夫・三都由紀

三 小欣矢・上小東矢

会 員

◆常磐津綱男ゆかた会

平成29年8月6日(日) 午後1時〜

名古屋城本丸御殿孔雀の間

「松の名所」「将門」ほか

出演 常磐津綱男・常磐津綱鵬・

常磐津綱実・遠藤肇ほか

◆浄瑠璃鑑賞会―浮世絵の情景

平成29年10月7日(土) 午後2時〜

東京・国立小劇場

「朝比奈地獄廻」

浄 松希太夫・文重太夫・仲寿太夫・

文字東久、

三 都崑蔵・都史・上菊太郎

ほかに新内・一中・清元

浮世絵研究の安村敏信氏のお話

国立劇場主催

◆第25回常磐津都崑蔵研究会

平成29年10月20日(金) 午後2時〜

東京・紀尾井小ホール

「仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居」

浄 菊美太夫・仲重太夫・和英太夫、

三 都崑蔵・上都史

尺八 三橋貴風

第72回文化庁芸術祭参加公演

◆関西伝統芸能女流振興会主催

(代表理事 向平美希(常磐津美佐希))

◇第3回麻の葉サロン

平成29年11月19日(日) 午後2時〜

大阪・新町源九郎

講師 常磐津三都貴、

ご案内 向平美希

常磐津の魅力や演目の解説、演奏など

◇第1回ましろ会

平成29年12月2日(土)

国立文楽劇場小ホール

〈二部〉午後1時〜

舞踊・義太夫「万才」(立方さつき縁方寿)

ワークシヨップ、長唄「鷺娘」、

常磐津「山姥」

〈二部〉午後4時半〜

義太夫「道行初音旅」、長唄「俄獅子」、

常磐津「婦系図」、ワークシヨップ

〈出演〉 常磐津・浄美佐季・都代太夫

三 三都貴・三都姫

義太夫・浄竹本住蝶ほか

三 豊澤住輔ほか

長 唄・唄 杵屋勝欣太ほか

三 杵屋勝欣次ほか

鳴 物・藤舎千穂社中

「伝統芸能を愛する女性たちが創りだす新しい舞台のかたち」と題して、賑々しく開催されました。道具・衣装・音響・化粧など、舞台裏方の女性も役員・スタッフとして参加されています。



◆双翼会(長唄 常磐津節 研究会)
―都の鬼二題―

平成29年12月9日(土) 午後2時〜

京都・安井金比羅会館

常磐津「辰橋」、長唄「綱館」

都代太夫・若音太夫、長唄の今藤政之祐・

杵屋浩基が同人となり、研究演奏会を立

ち上げました。常磐津都史・三之祐、(長

唄)杵屋喜太郎・杵屋寿哉(蔭囃子)藤舎

悦芳を賛助出演にお招きしました。



関西常磐津協会 Webサイトのご案内

常磐津節に関する情報、
当協会の事業内容、写真や図版が満載です。
『つどい』バックナンバーもご覧いただけます。
担当理事：常磐津綱男

<http://www.kansai-tokiwazu.com/>

これから（平成30年前期）

協会

◆常磐津塚法要

平成30年4月4日（水）正午
大阪・寂光寺（江口の君堂）
常磐津節のために尽力された先人の方の供養と
協会の親睦のための事業。

◆第6回 定時社員総会

平成30年6月（予定）
大阪市立中央会館会議室

事業報告・収支決算、事業計画、収支予算等
の議案を審議 詳細は追ってお知らせします。
会員の皆様のご参集をお願いいたします。

◆ときわづカルチャー第二期

常磐津節愛好者を増やし裾野を広げるため
の常磐津教室事業。対象は大学生と一般社会
人で定員は8名、受講料無料、協会事務所に
て講習。担当講師は綱男理事。

会員

◆重要無形文化財常磐津節第3回伝承 事業成果発表会

平成30年2月1日（木）午後2時

京都芸術センター講堂

主催 常磐津節保存会、文化庁補助事業

「松島」浄都代太夫・若音太夫・一男太夫、

三都史・三之祐

「八犬義士誉勇猛―麓の段・富山の段」

浄一 佐太夫 都代太夫 若音太夫 一男太夫、

三都岳蔵・都史・三之祐

指導 常磐津一 佐太夫、常磐津都岳蔵

主旨 保存会会員の指導を受けた伝承者が研
修の成果を発表すると同時に指導者との合
同演奏を通して、高度な伝統技能を実体験
習得していく。

◆関西伝統芸能女流振興会主催

（代表理事 向平美希（常磐津美佐希））

◆第4回 麻の葉サロン

平成30年2月25日（日）午後2時

大阪・新町源九郎

舞台衣装の話とワークショップ（着付け実演）

講師：辻野美加（衣装方）

◆第2回 ましろ会

平成30年9月24日（月）振休

ピッコロシアター大ホール



ときわづカルチャー 二期生募集中!

- 内容** 浄瑠璃と三味線の実技
- 場所** 協会事務所（国立文楽劇場東隣）
- 期間** 2期生は平成31年3月まで
- 時間帯** 要相談（月2～3回）
- 受講料** 無料

お申し込み・お問い合わせは
常磐津綱男（担当理事）まで

TEL:06-6214-0753 FAX:06-6214-0755
Eメール:info@kansai-tokiwazu.com



『つどい』に情報や原稿を お寄せ下さい!

会員の皆さまから、今後の催事予定、活動
報告、ご寄稿・エッセイ等を、随時募集して
います。次号（平成30年7月1日発行予定）
掲載分は、5月20日（日）締切です。郵便物
による原稿募集はいたしませんので、ご協力
をお願いいたします。

提出・お問い合わせは、三之祐まで。

メール hansinv10@yahoo.co.jp
電話 090-7881-3717

編集後記

今回、常磐津塚特集を担当させて頂きま
した。先人の塚への思いと、これからの
在り方が読者の皆様へお伝え出来れば幸
いです。本年も関西常磐津協会『つどい』
をどうぞ宜しくお願い致します。
（三之祐）